

きらり志摩びと紹介番組放送事業

実施主体：志摩市役所



きりり志摩びと放送番組制作プロジェクトは、昨年6月から今年2月にかけて行いました。事業内容は志摩市で放映されている行政チャンネル、「きりり志摩びと」のうち、5分間のコーナーをいただき、番組を制作、納品をすることでした。

学生の活動人数は2人。大学生テレビ局に所属する田中、木下と志摩市の岩城さんと3人で取材を行いました。皇學館大学生である私たちが、志摩の人びとを学生目線でみつめ、映像として地元の人たちにフィードバックするというコンセプトのもと、私たちは、「志摩の魅力って一体なんだろう」ということを常に頭に置いて活動してきました。

決まりごとは「5分間、志摩の魅力を学生目線で伝える」ということだけで、フォーマットはありません。企画から構成、撮影、編集、納品までの一連の制作の流れを行い、志摩市の志摩町、磯部町、大王町と3町を主題に3作品制作しました。

志摩町では町の魚屋さん、漁港の漁師さん、卸し問屋さんなどの人びとを訪れ、志摩の漁業をテーマに取材しました。

磯部町では町内にある郷土資料館で気になった人物、佐藤忠勇さんについて調べ、お孫さんにお話を伺いながら、的矢牡蠣のルーツについて学びました。

大王町では絵描きの町と呼ばれる理由をみつけるために町を散策し、町のシンボルである大王灯台に向かいながら、お土産屋さんや、旅館の主人などにお話を伺いました。

どの取材も共通して、志摩の人たちは仕事中にも関わらず、楽しそうに私たちのお話を聞いてくださり、地元のことについて熱心に話してくれる方々ばかりでした。

そういったところから地元への愛着はもちろん、人との関わり合いそのものをとても大切にしている土壤が志摩にはあるのではないかと感じました。

(指導教員: 齋藤 平)

